
2 型糖尿病患者における早期アルツハイマー型認知症合併の検討 ～早期アルツハイマー型認知症診断支援システム（VSRAD）を用いて～

吉田麻美、尾崎拓郎、斯波秀行、林 修平、合田 薫、阿部恵子、前田優希、
西山浩司、中澤博子、山本直宗、小山郁夫、佐伯彰夫、福田泰樹

（藍野病院 内科）

【背景】糖尿病はアルツハイマー型認知症（AD）の危険因子で、糖尿病では非糖尿病患者に比べて 2～3 倍 AD 発症が多いといわれている。その機序として糖尿病の代謝異常そのものやインスリン抵抗性の関連が示唆されている。一方、Voxel-based specific regional analysis system for Alzheimer's disease (VSRAD) は、AD にみられる海馬傍回の萎縮の程度を MRI 画像から読み取るための自動画像処理・統計解析ソフトで、早期から AD の診断が可能とされている。

【目的】糖尿病患者と早期アルツハイマー型認知症（AD）との関連を明らかにする。

【方法】糖尿病外来通院中の 2 型糖尿病患者 112 名（男性 53/女性 59 名、69.0±9.1 歳、HbA1c6.3±1.0%）に頭部 MRI を施行、VSRAD を用いて海馬傍回の萎縮度を測定、肥満、糖・脂質代謝、合併症との関係を検討した。

【成績】萎縮度は軽度 36 名、中等度以上 30 名で、ほぼ認めない 46 名に比べて、低血糖の有無、内臓脂肪蓄積の有無、HOMA-R (3.2±4.0 vs 1.25±1.25)、食後 2 時間血糖 (219±70 vs 179±46mg/dl)、年齢、BMI、拡張期血圧と有意な関連を認めたが、HbA1c、糖尿病性合併症、心血管疾患、高脂血症とは関連を認めなかった。

【結論】2 型糖尿病における早期 AD 合併と、低血糖、インスリン抵抗性との正の関連性が示唆された